

(成果情報名) 耐寒性に優れ香気の特徴があるチャ「ほくめい」の品種特性		
[要約] 耐寒性が強く芽重型で、多収であり、品質は「やぶきた」と同等である。 また、製茶にすると「やぶきた」と異なる香りを有する。		
茨城県農業総合センター山間地帯特産指導所	成果 区分	技術参考

1. 背景・ねらい

「やぶきた」を補完でき、良質多収で、耐寒性のある中晩生品種がないことから、本県に適する品種を選定する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 「やぶきた」より萌芽日は4日遅れる(表1)。
- 2) 樹高・株張りが大きく生育が優れる(表1)。
- 3) 寒害による赤枯れと青枯れの被害程度が「やぶきた」より低い(表1)。
- 4) 一番茶・二番茶の生葉合計収量は、「やぶきた」より約20%多く、特に二番茶の収量が多い(表2)。
- 5) 百芽重は「やぶきた」より重く芽重型である(表2)。
- 6) 一番茶・二番茶における荒茶の品質及び、全窒素含有率は、「やぶきた」との差はみられない(表3、表4)。
- 7) 製茶にすると「やぶきた」とは異なる萎凋香を有する。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本品種は、埼玉県農林総合研究センター茶業特産研究所で育成され1995年に品種登録された。
- 2) 耐寒性が強いので県下全域、特に県北地域に適用できる。
- 3) 芽重型の品種に合った仕立てや整・せん枝を行う。
- 4) 加工に特に注意することはないが、生葉の萎凋により特徴ある製品ができる。

4. 具体的データ

表1 生育特性

供試品種	萌芽日 (月日)	摘採日 (月日)	樹高 (cm)	株張り (cm)	株張り 指数	生育の		障害発生程度			
						良	否	病害	虫害	赤枯れ	青枯れ
ほくめい	4.20	5.23	85	113	1.33	3.5	1.7	2.4	1.4	1.1	
やぶきた	4.16	5.20	70	107	1.53	3.0	1.7	2.6	1.9	1.2	

注) 萌芽・摘採日、障害発生程度は1996～2005年の平均値。樹高、株張り、生育の良否は2005年の値。
株張り指数：株張り÷樹高 生育の良否：1（不良）→5（良） 障害発生程度：1（無）→5（多）

表2 収量および百芽重（1999～2005年の平均）

供試品種	生葉収量 (kg/10a)			百芽重 (g)	
	一番茶 (指数)	二番茶 (指数)	合計 (指数)	一番茶	二番茶
ほくめい	217.9 (104)	227.9 (140)	445.7 (119)	43.4	35.1
やぶきた	210.3 (100)	163.3 (100)	373.6 (100)	41.2	30.5

注) 指数は「やぶきた」を100とした値

表3 荒茶品質（1999～2005年の平均値）

供試品種	一番茶品質							二番茶品質						
	形状	色沢	香気	水色	滋味	内質計	合計 (指数)	形状	色沢	香気	水色	滋味	内質計	合計 (指数)
ほくめい	8	8	9	8	9	26	42 (102)	9	8	9	9	9	27	44 (100)
やぶきた	8	9	8	8	8	24	41 (100)	8	9	9	9	9	27	44 (100)

注) 品質評価は各項目10点満点で行った。指数は「やぶきた」を100とした値

表4 荒茶成分含有率（2005年）

供試品種	一番茶					二番茶				
	全窒素	遊離アミノ酸	テアニン	カフェイン	タンニン	全窒素	遊離アミノ酸	テアニン	カフェイン	タンニン
ほくめい	5.6	2.7	1.4	3.3	16.0	3.9	0.9	0.4	2.4	16.8
やぶきた	5.5	3.2	1.8	2.7	14.3	4.0	0.7	0.3	2.1	16.6

注) 成分は乾物当たり%、近赤外分光分析法 繊維は中性デタージェント繊維

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

チャ推奨品種決定調査・平成8～17年度・山間地帯特産指導所